

特集

2021年6月20日 近畿支部会 報告 ～天文学史・天文民俗学とその教育普及利用～

中道晶香（京都産業大学）、中串孝志（甲陽学院高校）、
古屋昌美（枚方市野外活動センター/向日市天文館/さじアストロパーク）、玉澤春史（京都大学/京都市立芸術大学）

1. はじめに

本報告は、2021年6月20日（日）に行われたオンライン近畿支部会の報告である。当日は招待講演1件を含む16件の講演があり、参加者は北海道から沖縄まで、非会員の方も含めて80人であった。

2. 企画・準備

コロナ禍のため対面での開催を断念し、zoomにsli.doのチャットを併用するオンライン開催とした。sli.doについては、本誌の2020年11月29日 近畿支部会報告を参照してほしい。

2.1 テーマに関する検討

これまでの近畿支部会とオンラインお茶会での意見をふまえ、「2回ある近畿支部会のうち1回はちょっと変わったものを行いたい」と希望していた。近畿には多くの天文史跡が存在し、天文学史や天文民俗学に造詣の深い人が多い。4名の支部代議員のうち2名がこの分野の人である本年が好機と捉え、七夕の時期に天文学史・天文民俗学をテーマに支部会を開催することになった。需要があるにもかかわらず、天文学史・天文民俗学に関する内容をまとめて発表・聴講できる機会は少ない。これまで近畿支部会に参加されなかった新たな層にも参加していただけたと考えた。

天文民俗学の大御所であり、多くの会員が講演を熱望している北尾 浩一氏に招待講演をお願いすることを決定し、支部会のテーマを「天文学史・天文民俗学とその教育普及利

用」とした。天文学史・天文民俗学等そのもの、それに関する教育普及利用、いずれも募集することにした。

2.2 事前資料

支部会開催にあたり、参加者の方から「事前に講演資料をいただければ、手元で拡大して見ることができるので有難いのですが」とのご相談をいただいた。手元に講演資料があれば、自分のペースで内容を確認できるため、参加者全員のメリットは大きい。そこで、講演者へ負担をお願いすることは恐縮だが、賛同いただける講演者のみ、事前に Google Drive へ講義資料をアップロードしていただき、参加者がダウンロードできるようにした。任意の提出であったが、予想を超えて16件中、13件もの事前資料が公開された。

3. 近畿支部会プログラム

予想の倍の申し込みをいただき、10時から18時30分頃まで長丁場での開催とした。

当日のプログラムは下記の通りである。本誌に集録記事を掲載した講演に*印（敬称略）

10:00 開始 挨拶、sli.doの使い方・諸注意

10:10 富田晃彦（和歌山大学）・綾仁一哉（井原市美星天文台）・山岡均（国立天文台）
「イランの正月＝春分『ノウルーズ』に合わせた日本とイランと世界の交流」*

10:30 澤田幸輝（和歌山大学）・北尾浩一（大阪科学振興協会中之島科学研究所）・尾久土正己（和歌山大学）「アストロツアーズを通じた星文化の教育普及の可能性ー鹿児島県と論島を事例に」*

- 10:50 玉澤春史（京都大学/京都市立芸術大学）『『ジャパンサーチ』の天文学史講義での利用実践』*
- 11:10 陶山徹（長野市立博物館）「長野県天文文化研究会の活動～長野県は宇宙県～」*
- 11:30 渡辺真由子（茅野市ハヶ岳総合博物館）「明治後期～昭和初期の学校における天文教育の変遷と地方天文同好会の発足：信州諏訪と山本一清博士」*
- 11:50 大西浩次（長野高専）
「市民科学による『長野県は宇宙県』の近代天文学史 100 年の構築にむけて」
- 13:00 基調講演：北尾浩一
「教育としての天文民俗」*
- 14:00 古屋昌美（枚方市野外活動センター）
「枚方・交野の七夕史跡と"HIRAKATA プラネタリウムミュージアム"のご案内」*
- 14:20 西村昌能（花山星空ネットワーク）
「記紀神話と星の神々」*
- 14:40 作花一志（京都情報大学院大学）
「平安文学の中の天変」*
- 15:00～15:15 休憩
- 15:15 小島敦「ギリシア人と星座と神話」
- 15:35 道越秀吾（京都女子大学）・河村聡人（京都大学）「京都女子大学の望遠鏡から見た日本の天文学史」*
- 15:55 山田竜也（ナスピア）
「レーマーによる光速度測定について」
- 16:15 嶺重慎（京都大学）
「天文手話 5 1 語リストの公開」*
- 16:35 河村聡人（京都大学）
「Mitaka の改造のススメ」*
- 16:55 岸本浩「5.26 皆既月食での高校生共同観測の顛末と今後...～月の視差から距離を求める～」*
- 17:30 ディスカッション：来年の年会に向けて（年会担当理事 平松氏のコメント含む）
- 18:30～22:00 オンライン懇親会
（北尾氏による講演続編を含む）

4. 当日の議論と本誌における集録

バラエティに富んだ内容の講演と議論が行われ、全国大会のような充実した会となった。sli.do のチャットは後から参加した者も閲覧できるため、講演後も zoom のチャットと併せて多くの議論と情報交換が続いた。

北尾氏の招待講演では、沖縄の離島などへ取材に行かれ、現地の方が歌う貴重な映像も紹介された。懇親会においても、各地の七夕まつりの風景や星の歌などの動画が紹介された。生活しているときに実際に星を観察し、それをもとに判断し行動する経験を積んでいくプロセスを教育として意味づけ、天文教育の根幹にかかわるものとしての天文民族を考えるとという北尾氏の姿勢には、多くの参加者が感銘を受け、賛同されていた。

他の講演も綿密な調査・研究の成果であり、いずれも珠玉の講演であった。懇親会では加藤賢一氏によるミニ講義もあり、密度の濃い懇親会となった。「天文教育」7月号の加藤氏による記事も参照されたい。

今回参加できなかった人にも広く紹介し、後世への記録を残すことは重要と考え、賛同いただける講演者の方々に集録原稿の執筆を依頼した（さらに調べてから後日投稿される方々もおられる）。講演者の皆様と参加者の皆様にあらためて御礼を申し上げる。



図1 Zoom 記念撮影（一部）

中道晶香